

令和 7 年度
第 1 回多治見市都市計画審議会
議 事 要 旨

- ・開催日時：令和 7 年 7 月 1 日（水）13:30～15:30
- ・開催場所：多治見市役所本庁舎 5 階 全員協議会室

《委員》

区分	所 属	氏 名	出欠
会長	豊田工業高等専門学校准教授	佐藤 雄哉	○
委員	陶都信用農業協同組合常務理事	森川 顕	○
〃	多治見商工会議所専務理事	長江 信行	○
〃	センチュリー21 サグチ不動産代表	佐口 悟	○
〃	多治見市議会議員	仙石 三喜男	○
〃	多治見市議会議員	吉田 企貴	○
〃	市民	飯田 静香	○
〃	市民	水野 隆吾	○

《事務局》

- ・多治見市長：高木市長
- ・多治見市都市計画部：福田部長
- ・多治見市都市計画部都市政策課：小玉課長、小木曾課長代理、藤田総括主査、西尾主査

《配付資料》

- ・会議次第
- ・委員名簿
- ・席次表
- ・【意見照会】：第 1 号議案
資料 1－1～1－4 第 1 号議案 第 3 次多治見市都市計画マスタープラン中間改訂について
- 参考 1 令和 6 年度第 2 回多治見市都市計画審議会 議事録抜粋
- 参考 2 令和 7 年度都市計画審議会の案件（予定）

1 開会

2 市長挨拶

- ・ (高木市長挨拶)

3 会議成立の報告等

- ・ 8名／8名の出席となり会議の成立を報告。
- ・ (各委員挨拶)

4 会長選出

- ・ 会長として佐藤委員を選出。
- ・ (会長挨拶)
- ・ 職務代理者に仙石委員を指名。また、議事録署名人として佐口委員と飯田委員を指名。

5 議事

(1) 【意見照会】第1号議案 第3次多治見市都市計画マスタープランの中間改訂について

【意見概要】

- 11 頁「社会増減の推移」のグラフは、今後の大学誘致を見据えて若者の転入出状況をわかるよう修正してはどうか。
- 11 頁～31 頁の「現況及び課題」では、項目別に客観的な事実のみを示すのではなく、事実の原因等への考察を記載した方が良いのではないか。
- 11 頁～31 頁の一番初めの頁に、各分析の枠組みがわかる見取り図を追加してはどうか。
- 32 頁の表側の分類名を、11 頁～31 頁の項目名に沿って付けた方がわかりやすいのではないか。
- 32 頁及び 33 頁において、人口減少は「課題の整理」の「前提となる課題」と位置づけられるため、この関係がわかる概念図を追加してはどうか。
- 32 頁及び 33 頁の整理項目を、「土地利用」の細目として住環境や交通等の他の項目が紐づく関係にあることを踏まえ再整理してはどうか。
- 35 頁「将来都市構造図」について、より分かりやすい図とするために「テクノパーク等」や「緑の拠点」等の拠点の記載について再考してはどうか。

【詳細】

- (資料 1－1～1－4 を事務局が説明)

○会長

- ・ 昨年度、住民説明会を 3 回、おとどけセミナーを 1 回実施したとのことだが、参加人数を教えてください。

→事務局

- ・ 住民説明会は合計で 38 人。おとどけセミナーは 14 人、合計 52 人に参加いただいた。

○委員

- ・ 資料 1－3 の 7 頁や 8 頁等に、課題として人口減少が挙げられており、その要因の 1 つに若者の転出に関する記載がある。今後、大学誘致があることも考えると、11 頁「社会増減の推移」のグラフにて若者の転入出状況をわかるようにした方が良い。
- ・ 18 頁の地価に関する各グラフは、最新の令和 7 年の調査結果を反映した方が良い。
- ・ 20 頁「新築着工件数の推移」のグラフは、5 年毎に実施されている都市計画基礎調査のデータではなく、毎年公表されているデータを用いた方が良いのではないか。

→事務局

- ・ 11 頁「社会増減の推移」のグラフは、各年齢層の転入出状況がわかるよう追加を検討する。

議事概要

- ・18 頁の地価に関しては、最新データを反映する。
- ・20 頁「新築着工件数の推移」のグラフは、現計画では毎年公表されている岐阜県統計書のデータを用いていたが、単年だと傾向が見えにくいことから、5年間の合計値で示した。また、データも都市計画基礎調査のデータに差し替えた。こういった見せ方が望ましいか検討する。

○委員

- ・資料1－3の11 頁「社会増減の推移」のグラフで、令和4年に転入数が転出数を上回っている理由を教えてください。

→事務局

- ・多治見駅南の再開発事業でマンション棟が完成したこと、コロナ禍が明けて外国人の転入が増加したことが理由として考えられる。

○委員

- ・資料1－3の20 頁「空き家数と空き家率の推移」のグラフを確認すると、令和5年の空き家率は平成30年から大きく減少しているが、これは妥当な数値なのか。

→事務局

- ・本市の空き家は増え続けているという認識は、全員一致していると思う。空き家率の数値は、住宅・土地統計調査の数値を記載している。この調査は、調査エリアに指定された場所で調査員が現地で建物の外観などから空き家を判別し、それを統計処理して空き家数を推計していることから、調査エリアによって推計結果にバラつきが生じる。平成30年はやや大きい数値となっているが、平成20年、平成25年、令和5年の推移をみると緩やかに増加している傾向となっており、市の実情と近いと思う。

→委員

- ・一般市民がこのグラフを見ると、市が対策を実施した効果として空き家が減少し、これから良い方向に進んでいくと捉えられないか危惧しているが、それは考え過ぎだと思うか。

→事務局

- ・ご指摘のとおり、統計調査の性質上難しい部分もある。感覚と違った印象を与える可能性もあるかもしれないが、他市との比較なども掲載するなど、様々な視点で見ることができるよう工夫していく。

○委員

- ・資料1－2の(9)を確認すると、住民から企業誘致に関する意見があり、それに対して市は「今後も企業誘致の効果を拡大していきたい」と回答している。個人的にはこれまでの企業誘致の取組により、進出企業28社ととても良い成果が出ていると思っていたが、他の方は違う受け取り方をしているのだと思った。これについて、市は企業誘致を行った結果、有効求人倍率にも効果が表れているといったことは説明したか。
- ・「企業誘致に係る税収」について、約10億円の税収増につながっているとの説明があったが、市民の意見等があれば教えてください。

→事務局

- ・企業誘致はこれまでの成果も含めて、今後に対しても期待が高いと捉えている。これまでの成果として28社が進出し、その進出企業に勤める方が企業市民として、市の様々な地域貢献活動に取り組んでもらっている。それが企業誘致の効果の拡大になると住民説明会では説明し、参加者には好意的に受け止めてもらったと感じている。意見についても、もっと頑張れというエールだと認識している。

○委員

- ・資料1－3の11 頁以降の「現況及び課題」は、項目別に客観的な事実がまとめられているが、その要因を記載していないが、そうした内容は載せない方針か。例えば、先程も話題に上がった11 頁の「社会増減の推移」や、12 頁の「中心市街地における人口増減率」では川南地区の人口が減少していると事実のみが記載されている。

→事務局

議事概要

- ・基本的には、客観的な事実を示すことをメインにしている。要因については、深堀できる部分もあるが、お示ししたデータを見て市の実情を知ることには意義があるものもある。また、考察をした方がよいという意見があれば、そうした記載にする形にした方がよいと考えている。これらの部分は、33 頁以降のまとめにつながる内容であり、事務局も悩みながら作業しているため、意見をもらえると大変ありがたい。

→委員

- ・この「現況及び課題」の章は、どういう項目を載せる部分なのか。課題の整理はするがその分析はしないのか。

→事務局

- ・例えば、人口であれば、単純な市全体の人口だけでなく、自然増減や地理的な分析など、様々な視点から分析を行っており、そういった分析の部分も示している。

○委員

- ・「現況及び課題」の章は、基本的には市の課題を整理して分析を行い、その対策を立てる章だと理解しており、その意味で言うと一定の分析は必要だと思う。加えて、分析そのものがどういった枠組みで実施しているかが分かる見取り図があると良い。その見取り図が恐らく課題の整理表につながってくると思う。現状の構成では、順番に読んでいかないと流れが分からない。冒頭に分析結果の概要を示す形でも良いし、この項目は何頁に記載しているという形でも、どちらでも構わないと思う。
- ・32 頁の整理表は 8 項目になっているが、11 頁以降の分析は 10 項目でそれぞれ対応していないが、それはなぜか。

→事務局

- ・冒頭に「現況及び課題」の概要を図表で示すかについては、検討する。
- ・11 頁以降の現況分析と、32 頁の課題の項目の対応については、どう関連性を持たせるかの考え方による。32 頁の項目に沿って現況分析をする方が分かりやすいと思う一方で、1 つのデータを 1 つの項目に紐づけしにくいものもあり、単純な整理がしにくい部分がある。例えば、土地利用は住宅・産業・商業に関連するものがある。そのため、項目を統一せず整理した。

→委員

- ・11 頁～31 頁は基礎資料を整理し、その解析結果を 32 頁～33 頁に記載していると思う。担当者レベルでは市の都市計画を立案する上で必要な分析をより深く実施していると思うが、この資料だけを見ると、基礎資料から分析結果までの間の考察・論理が省略されていて、担当者は理解できても一般市民が見ると、なぜこの結果が出てくるかが分からない。データが提示され、分析結果が出ているだけなので、その間を埋める工夫をしてほしい。

→事務局

- ・素案の修正を検討する。

○委員

- ・資料 1－3 の 22 頁「工業」のグラフにて、窯業・土石業の製造品出荷額等が数字だけ見ると令和 2 年、令和 3 年はコロナの影響もあり減少し、令和 3 年以降はコロナ明けというこもあり増加しているが、窯業・土石の業界が良くなっている実感はない。もしかしたら NGK セラミックデバイス(株)が操業開始して売上に含まれるのかもしれないが、表現として「再び回復傾向」というのは違和感があるため、要因を調査したい。
- ・22 頁「企業誘致に係る税収」のグラフについて、令和 6 年はもっと伸びていると思う。事務局も企業誘致に対する期待は高いと説明していたため、最新データは反映した方がよいと思う。
- ・住民説明会にて「多治見市で働く人々を増やす施策が必要」との意見があった。企業誘致によって雇用数はかなり拡大したと思うため、企業誘致に係る雇用者数のデータがあれば、効果がより分かりやすいと思う。

→事務局

- ・窯業・土石業の増加の要因は事務局でも調査を行う。
- ・企業誘致に係る税収はデータを更新する。また、進出企業に係る雇用者数は、ヒアリング等で把握できると思うが、明確に公表できる数値かを確認する必要がある。また、明確ではない数値

議事概要

の場合、それを掲載すると誤解を招くおそれもあるため、その辺りも含めて担当課と調整し、次の会議で方向性を提示する。

○委員

- ・資料 1－3 の 25 頁～26 頁に様々な公共交通に関する分析結果が記載されているが、多治見市の場合には名古屋から近い便利なまちである。鉄道だと、JR多治見駅から約 40 分程度で名古屋まで行くことができ、市民の移動手段となっている。多治見駅の駅長の話では平日で約 22,000 人、休日で 11,000 人の乗降客が見られるとのことである。そうした駅の乗降客数のデータも追加してはどうか。

→事務局

- ・本計画の関連計画である多治見市地域公共交通計画にて、多治見駅の乗降客数も含めて、各公共交通の利用状況の詳細を整理している。本計画では、そこから項目をピックアップして掲載しているが、鉄道のデータを載せるかは検討する。

○委員

- ・資料 1－3 の 27 頁に関して、多治見市の市民一人当たりの都市公園面積は周辺都市と比べて多いということだが、公園や緑地は新たに団地が開発された際に公園を整備したり、美しい風景づくり条例に基づき緑化を推進したりすることが多いと思う。15 頁等の説明では市内の宅地面積も増加傾向との説明があり、相反する内容のように思う。陶都の杜にしても森林を宅地開発したが、いくら条例の基準に沿って緑化したり、宅地開発に伴う都市公園を整備したりしたとしても、緑地から宅地になった面積の方が大きいと思う。市民一人当たりの都市公園面積が増えているのであれば、それ以外に要因があるのか。
- ・気候変動に関する関心も高くなっており、多治見だけでできることは少ないと思うが、宅地も緑地も増えているという状況は、どのように理解すれば良いか。

→事務局

- ・都市公園の数は、大規模な宅地開発等に伴って整備されることで増加している。
- ・市民一人当たりの都市公園面積は、ここ 15 年間で人口が減少したため、一人当たりの公園面積が増加する側面があり、他市との比較で、そもそも都市公園の面積自体が多いことを示している。実際には、公園の維持管理や保護活動も行っており、定量的なデータ以外の内容も示せば良いが、現状は他市比較を掲載して分析を補完している。

○委員

- ・資料 1－3 の 31 頁に「中京学院大学のキャンパスを多治見市内に移転することについて、正式協議を進めることとする基本合意書を締結しました。」との記載があるが、7 月 2 日に協定書を正式に締結するはずなので、記載を修正した方が良い。

→事務局

- ・次回の都市計画審議会にはその時点での状況を反映し、計画公表時には写真を追加する等して、情報を更新していきたいと考えている。

○委員

- ・資料 1－3 の 25 頁に多治見駅や小泉駅等の主要な鉄道駅の乗降客数は記載した方が良いと思う。
- ・29 頁「平成 23 年 9 月の台風 15 号豪雨時の内水氾濫による対策前後の浸水深」の下の図（対策後）は、シミュレーション結果を示しているか。上の図（対策前）は平成 23 年とあるが、下の図はデータの時点の記載がない。対策後の図がシミュレーション結果なのであれば、その旨を記載した方が親切だと思う。
- ・31 頁の大学誘致に関する記載は、大学の誘致場所がわかる地図程度は掲載してはどうか。
- ・31 頁までの分類と、32 頁の表にある分類を分けて整理しているが、現況分析は人口から始まっており、これは現況及び課題の最も重要な項目が人口だからだと思う。32 頁では、課題ではなく、課題を整理する上位の概念である「まちづくりの視点」の要素として人口を扱っているが、この意図を教えてほしい。

→事務局

議事概要

- ・都市計画だけではないかもしれないが、7頁「(1)都市計画を取り巻く社会情勢の変化」にも記載しているが、多治見市をめぐる状況として、何がまちづくりの軸になっているかを考えると、昭和期は人口が増加し、まちが拡散していくことを前提に都市計画を考えてきた。現在は、人口減少や高齢化を軸に動いており、人口を土地利用等と並列にするとバランスが悪く、説明がしにくい部分があったため、人口減少を前提・背景にして、各項目でどのような影響を受けているか、どう立ち向かわなければいけないのか、という視点で課題を記載している。

→委員

- ・人口減少を各項目の課題の「前提となる課題」として整理していると思う。分析の方向性として正しいと思うが、パッと見てその関係性が分からない。かなり複雑な整理をしているため、概念図があると良いと思う。
- ・諸課題を整理する上での前提となる課題として人口減少があるとする、例えば中心部では「人口減少による、都市機能や生活利便性の低下への対応」というように、人口減少を強調して記載している部分がある。これは二重表現のように思うが、あえてそう記載しているのか。

→事務局

- ・人口減少が前提にあることは、32頁の冒頭の文章に記載しているが、あまり読まれない部分かもしれないため、表現方法は再検討する。
- ・課題の中に人口減少を記載しているのは、わかりやすさを重視しているためで、表現が重複しているのは認識している。

○委員

- ・11頁～31頁の整理の枠組みと32頁の整理の枠組みに差があるため、項目を揃えたり、関係性を示したりする必要があると思う。
- ・土地利用と中心部の視点を分けたのはなぜか。

→事務局

- ・重点課題にも関連してくるが、多治見市全体のマクロ的な土地利用がどうかという視点と、コンパクトなまちづくりには拠点が必要であり、その拠点を見たときの中心部の土地利用はどうかという関係性で項目を分けている。中心部も土地利用の1つではあるが、特出した方が良く考えている。

→委員

- ・土地利用の項目は、他の項目とレイヤーが異なるように感じる。都市計画はそもそも土地利用に関する計画であり、それ以外の項目は土地利用の細目と思う。重点課題を見ても、多治見市の土地利用の大きな方向性としてはネットワーク型コンパクトシティの形成であり、その形成において、中心市街地や道路、緑地といった観点がある、という図なのだと思う。ネットワーク型コンパクトシティ等の諸課題を考える上では土地利用の検討が必要であり、土地利用や諸課題を考えていく上での前提条件として人口減少という課題に直面している、という構造だと思う。現状は平面的な課題構成になっているため、もう少し立体的に構成を組んだ方が良い気がする。

→事務局

- ・表中に整理した課題と人口減少には前提や背景の関係にあり、土地利用とそれ以外の項目にも関係性があるため、その構造を可視化して段階的に提示できると論点が整理できるという指摘だと思うため、その点について難しいが検討していきたい。

→委員

- ・今の認識で問題はない。都市計画の観点で考えても、土地利用は区域区分や地域地区の考え方に近いと思う。その下に中心市街地があり、概念の考え方や対応する法律の関係性も異なると思う。課題や視点の整理にあたっては、国や市の行政計画との整合性を考えていくことで、記載項目も整理できると思う。

→会長

- ・大事な指摘とは思いますが、今回は中間改訂であるため、まちづくりの重点課題は大きく見直さない方針かと思う。現況整理の数値を時点修正することが中心だったかと思うが、その分析結果を重点課題に分かりやすくつなげようと、構成を再考しているのだと思う。ただ、委員が指摘するとおり、一般市民に分かりやすく提示できる内容にした方が良くと思うため、検討してほしい。

○委員

議事概要

- ・資料１－３の４４頁に「d にぎわいの創出及び、都市機能の誘導等のため、多治見駅周辺の土地の高度利用や機能集積を促進します。」との記載があり、計画書としてはこの内容で問題ないと思うが、１７頁「中心市街地の平面駐車場の分布」の図からもわかるように、多治見駅北側の区画整理地内には平面駐車場が多く存在している。市から地権者へ高度利用するよう働きかけていると思うが、地権者からすると平面駐車場の方が良いと思う人が多い。高度利用する良い案があれば良いが、特に案がなくて計画倒れになるのは良くないと思う。どのような状況なのか教えてほしい。
- ・４９頁に「a 森下テクノパークを整備し、工業系の土地利用を進めます。」との記載がある。工業系になっているが、先日、(株)平中サービスという物流会社の進出が決定したため、工業系ではない表現に変えた方が良い。

→事務局

- ・平面駐車場について、コンパクトシティを実現する上では、公共交通を充実させることも重要だが、中心市街地にある駐車場に車を停めて、まちなかを歩いて動くことも重要だと考えている。ただ、多治見駅の北側で区画整理を実施したエリアについては、平面駐車場ではなく高度利用してもらい、事業効果を上げたいという思いから、課題として挙げている。指摘のとおり、土地利用は地権者の意向に委ねられるものの、行政として高度利用を促したい。そのため、今年度どのような施設があればこの地区に足を運ぼうと思うか等の利用者側の意向を把握するアンケート調査や、デベロッパーとの意見交換を実施し、どのような需要があり、どのような施設であれば建設できるか等を意見交換を行いたいと考えている。また、地権者に対しては、対面で話したり、アンケートを実施したりして、現状と将来の土地利用の意向を調査したいと考えている。この経過については、この場でも逐次報告して議論させていただきたい。
- ・４９頁の記載内容については、当該企業と企業誘致に関する協定を結んだため、文章を修正する。

○委員

- ・資料１－３の５２頁の道路関係について、多治見市のアンケートで最も不満がある項目は、インフラで、特に道路渋滞に関する内容で、市民の関心が高いと思う。文章をよくよく読むと「１０年以内に整備することを予定する道路」と書いてあるが、先行して事業が進んでいる道路と、着工するかが怪しい道路があるが、１０年以内に完了を予定している等の色分けをできないか。

→事務局

- ・市民感覚で言えば、この道路が整備されるといった内容を示してほしいことは理解しているが、都市計画の仕組みとして、今後事業化を予定していたり、都市計画に位置づけたりする際に、この方針に記載がないと次のステップに行けない部分がある。また、記載内容は県の「都市計画区域マスタープラン」の内容と合わせている部分がある。都市計画マスタープランは方針を示す計画であり、その中でも踏み込んで記載している部分ではあるが、計画の特性上こうした記載になっていることはご容赦いただきたい。
- ・一方で、例えば第８次多治見市総合計画では、今後４年間で整備する路線を具体的に記載しており、役割分担をしている。事業化する路線については、本計画のエリア別方針の中で具体的に記載している箇所も存在する。事業の確度によって図面の凡例を分けるのは難しい。

→委員

- ・事情は理解するが、「整備すること」という表現は、一般市民だと「整備される」というイメージを持つと思う。以前の都市計画審議会でも扱った音羽小田線は市も最優先で整備すると説明されていたが、事業着手の実現性が低い道路も含まれているため、そうした道路が同じ扱いになっているのは良いのかなとは思う。

→事務局

- ・都市計画の手続き等で載せている部分と、実際の道路の事業化の状況を踏まえて色分けをすることで、図を市民感覚に近づけるための工夫が必要という意見として頂戴する。

○委員

- ・知り合いが富山市のコンパクトシティの見学に行った話を聞いたが、多治見市もコンパクトシティの実現を目指しているが、富山市のような方向を目指しているのか。自分の中で都市像がぼやけている。立派な資料だとは思いますが、完成する都市の姿はどのようなものか。例えば多治見駅か

議事概要

ら市之倉地区や笠原地区までのモノレールを整備するといったことだったり、富山市の場合は公共交通機関をフル活用している。車社会から脱し、高齢者や子どもも移動できる生活環境をつくり、市街地の中心に学校や病院等の全ての機能をまとめる、未来都市のようなものを目指しているのか。

→事務局

- ・計画では夢物語を描くのではなく、どちらかと言うと現実的に書いている。現状の公共交通を維持しながら地域と中心拠点を公共交通で結び、生活に必要な機能が地域拠点だったり、そこになければ中心拠点に移動して、生活を成り立たせるものをイメージしている。9頁「多治見市立地適正化計画における都市の骨格構造」が最もシンプルな概念図かと思う。JR中央線や太多線が大きな軸としてあり、基幹的なバス路線も重要な軸であるため、それをしっかりと守っていく必要がある。昨年、路線バスは減便や路線の見直しが大幅に行われたが、その中で「バスチケット65」という制度を展開し、バスに乗る人を増やして、路線バスがこれ以上減便したり、路線廃止になったりしないよう、地域みんなで基幹交通を盛り上げていこうと取り組んでいる。今あるインフラはとても大事であるため、これを守っていくことはとても大きな視点だと認識している。
- ・地域拠点が市内に点在しているが、この地域拠点だけで生活を成り立たせることは現実的には難しいと思っている。一定程度の生活必需品が買える商店が地域拠点にあることはすごく良いことで、それは必要だと認識しているが、それだけではなく中心市街地に移動して金融機関や医療施設等を利用し、生活に必要なものを多治見市内でまかなえるようなイメージでコンパクトシティをうたっている。

○委員

- ・資料1－3の32頁の課題整理の中で大学誘致が課題の1つとして挙がっている。誘致できたことは良かったと思うが、周りから話を聞くと「若い人が来る」「道が混んで笠原に行くのが大変になる」「多治見に働く場所がないから、どうせ都会に帰ってしまう」というのはよく聞く。大学誘致をしたことで、多治見市としては今後どのようなようになってほしいと考えているか。どうにぎわっていけば良いか、方針があれば教えてほしい。

→事務局

- ・大学誘致は、都市計画の視点からも期待値は高い。実際に大学誘致が今後どのように進むのか注視し、都市計画側に反映していくことが大切だと考えている。その上で課題としては、少なくとも18歳～22歳の大学生が600人～1,000人規模で昼間人口として市に入ることになるため、まずはその1,000人に大学までどう移動してもらうかが重要である。全員が車を使うと、交通が集中してスムーズな交通に支障が出ることは課題だと認識している。公共交通で移動してもらうために、この地区の路線バスを運行している東濃鉄道とも意見交換を行い、大学とも話をしながら公共交通の可能性を拡大していきたいと期待している。
- ・また、現在話した人数は昼間だけだが、その中の一部は多治見市に住む可能性があるため、そうした学生の住む場所をどう確保していくか、加えて、生活が始まれば、その場所での消費活動や飲食店等でアルバイトすることも考えられる。そうしたことへの期待は耳にすることも多い。1,000人の学生をいかに多治見市内の経済や交流に波及させていけるかが重要であり、市のトピックス的にも注力しようとしているものである。こうした場でも進捗を報告し、議論していければと思っている。

○委員

- ・資料1－3の35頁及び36頁の「大学」の拠点の凡例について、「テクノパーク等」と同じ表記となっている。大学は拠点としても必要な要素になると思うため、変更した方が良い。
- ・「テクノパーク等」を拠点として都市構造図に記載している意味を教えてください。

→事務局

- ・「大学」の拠点の表記方法は修正する。
- ・テクノパークは産業拠点として人の流れに影響を与えるとともに、都市計画としてこれまでの土地利用や市街化区域の拡大等にも影響してきたことから特出ししている。

→委員

議事概要

- ・大学は、施設を設置すると人の流れが変わり、公共交通の維持や住宅価格の高騰、アルバイトの人材が増える等の影響があり、都市構造が変わるため、拠点として示す意味があると思う。テクノパークだと、土岐アクアシルヴァのような大きなものであれば人流は変わると思うが、この図面にある山吹テクノパークや高田テクノパーク、旭ヶ丘テクノパークは、都市構造に影響するような規模という認識なのか。

→事務局

- ・ある程度の企業立地がされているという意味では、今後大きな動きはもしかするとないかもしれない。ただ、そこに拠点があることで、アマゾンやトヨタ自動車は従業員がバスを利用することもあるため、それぞれを拠点と考えている。

→委員

- ・図の情報量が多く分かりにくいいため、都市の構造として人の移動が発生する施設は残しても良いと思うが、そうでないものは削除してはどうか。多治見市の場合は平場に大きな工場を1つ誘致する形であり、一般的な工業団地と比べると都市の構造に影響を与える要素は小さいと思う。図の見やすさを優先した方が良いと思う。
- ・図中の「（仮称）土岐多治見北部連絡道路」は整備済みのため、仮称は削除した方が良い。
- ・「緑の拠点」を位置づけているが、どういう意味があるのか。「緑・農地ゾーン」とは別に設けている。

→事務局

- ・都市計画上の位置づけとして、風致地区や都市緑地、都市公園等を「緑の拠点」に位置づけている。

→委員

- ・図の凡例は35頁にある「まちづくりの重点課題と将来都市構造図の関連表」に記載するためにあると思う。テクノパーク等は「骨太の産業構造を形成する土地利用」との関連性を示すために位置づけている部分もあると思うが、それに影響を与えているかが疑問である。また、緑の拠点はこの関連表のどこにも出てこないが、それでも拠点に位置づけることが必要か。

→事務局

- ・「緑の拠点」は「水と緑の計画的な保全」に関連する拠点という認識だが、記載漏れのため修正する。

→委員

- ・詳細な部分が分かりにくいいため、データを増やしながらかかりやすくするためには、情報を取捨選択した方が良いと思う。

→事務局

- ・「将来都市構造図」を作成する上では、都市の構造をどう示すかが難しく、また、事業を実施した場所については図面に載せたいという思いもある一方で、図が見にくいという点については、意見を踏まえながら修正する。

→委員

- ・テクノパークは市が実施してきた事業であるため、図に載せたいのだろうなと思うが、これはそうした内容の図ではないと思う。図をよく見ると、テクノパークは市の北部に集中している。笠原もそうだが、そうした場所が新産業の誘致エリアということで、エリア的に示せば都市構造図に掲載する意味があると思う。市の実績を図に載せても仕方がないと思う。将来の都市構造を示すのであれば、テクノパーク等の位置づけはあえて考え直した方が示しやすいのではないかなと思う。

→会長

- ・将来都市構造図は、本計画の目標年次である令和12年度に多治見市がどういう都市構造になっていたかを示す図である。その時点でテクノパークが立地しているのであれば、都市構造に影響を与える拠点として、記載が必要かもしれない。その辺りの考え方については、事務局で改めて整理してもらえればと思う。

○委員

- ・資料1-3の53頁に「b 基幹交通（鉄道や路線バス）を確保・維持しながら、便利に各拠点間を移動できるよう、コミュニティバスやデマンド交通をはじめとする地域内交通の充実を図りま

議事概要

す。」との記載がある。考え方が違うかもしれないが、多治見市は駅を拠点に放射線状にバス路線が伸びており、横の移動が難しい。生活交通軸とあるため観光的な視点を入れるのはすぐわな
いかかもしれないが、観光施設同士を結ぶような東西方向の移動交通を確保するイメージで合っ
ているか。

→事務局

- ・方針としては、中心拠点と地域拠点の移動を前提としている。それ以外の移動として、例えば地
域拠点間の移動をデマンド交通等で行おうとすれば、実現できないことはないと思うが、実態と
しては中心部に集まるような移動が多い。その辺りも踏まえつつ、デマンド交通が中心部に集ま
る以外の移動手段の担い手になると思うため、東西方向の移動という視点も忘れずに取り組んで
いければと考えている。
- ・デマンド交通の現状について説明すると、コミタクモビリティサービス(株)が運行している「よ
ぶくるバス」があり、市は地域内交通に位置づけている。もともと小泉・根本と市之倉のエリア
で運行していたが、今年の6月2日から池田・喜多町までエリアが拡大し、市之倉エリアも大畑
町の一部がエリアに加わるなど、運行エリアが広がっている状況である。エリア内であれば、タ
クシーと同様にどの地点からでも乗降車可能である。エリア外だと、多治見駅や中心市街地にあ
る病院やスーパー、店舗等の様々な施設がミーティングポイントという、仮想のバス停に設定さ
れており、乗り降りができるようになっている。このようなデマンド交通が市内で展開されてい
るため、補足として説明する。

6 閉会

(事務局)

- ・今年度の審議会は令和7年10月に第2回、令和8年2月に第3回を予定している。日時は後日
改めてご案内する。
- ・(福田部長挨拶)

(15時15分終了)

-以上-